

令和 7 年 4 月 1 日

令和 7 年度 府中市立府中第三中学校 経営計画

Ⅰ 学校経営方針

府中第三中学校は、三地区の学校として保護者から「地域の中の学校」として愛されている。地域からの本校の教育に対する関心は高く、誇りに思い、期待をかけ、応援を惜しまない地域である。保護者・地域の期待に応えるべく、生徒の健やかな成長を目指して心豊かで将来に夢や希望を抱いてたくましく生きていく力を育てる。そのために、生徒が学ぶ喜びや励む楽しさを体得できる学校づくりを行う。

<教育目標>

「自他の敬愛」

- (1) 自分を大切にし、他人を尊敬し、楽しい学園を作ろう（生活）
- (2) よく運動し、衛生に注意し、健康な身体を作ろう（健康・安全）
- (3) よく勉強し、個性を伸ばし、役に立つ人になろう（学習）
- (4) 勤労をよろこび、苦難にうち勝ち、正しく強く生きていこう（進路）

【目指す学校像】

人権の大切さを生徒に教え、教師は生徒の模範となる姿勢を示し生徒に寄り添った教育を行うことが大切である。人間としてのあるべき姿を教師は生徒に示し、誰に対しても人権を無視した態度をとることがないように教育に当たる必要がある。

また、時代に応じた指導の在り方を考え実践し、社会が生徒に求められていく力を身に付けることが教育の役目である。生徒の主体性を重視し自主的に物事を行おうという力を育む教育に当たることが大切である。そして協働して物事を解決する場面を作り取り組ませることを忘れてはならない。

- 1 生徒の心の居場所になれる学校（人間尊重の精神）
- 2 生徒が生き生きと主体的に考え学び自己決定により夢を実現できる学校
- 3 地域とともに歩み、地域から愛され、誇りに思える学校

【目指す教師像】

- 1 人権感覚に優れ、個々の人間性を意識し認め合える教員
- 2 生徒の多様性を理解し、生徒の良さや個性を伸ばすことができる職員
- 3 未来志向、プラス志向で考えられる教員
- 4 職員全員が気付き、高め合い協働して磨き合い課題解決する教職員集団
- 5 地域、保護者に情報発信を行い地域と共に歩み、地域と信頼関係を築く。
- 6 感性を研ぎ澄ます。そのためには教養を身に付ける。
- 7 教育の今後は、協働的な学習と個別最適化の指導方法の充実である。
- 8 教師は生徒、保護者にとって特別の存在であることをもっと意識する。
- 9 地域に住む中学生を教師としてどのように育むかを考える。

## 【令和7年度 学校スローガン】

「生徒と教師が人間として尊重し合える関係」

「生徒に協働的な学習に取り組ませ、生徒の個性と主体性を生かす」

## 2 学校運営の方針

「チーム三中」をスローガンに「和」を図りながら学校力を高める。同じ職場に巡り会った出会いを大切に、明るく楽しい、しかも意欲と活気に満ちた学校にしたい。互いの良さを認め高め合い、また弱点は温かく補い合って組織体の一員としての機能を十分に発揮できるようにする。教職員がガラス張りの環境づくりを心がけることで学び合える教師集団を目指す。些細なことと思われることでも、声を上げ共通理解・共通実践を心がける。

## 3 今年度の目標と方策

### (1) 心の教育の推進

- ① 学校行事等の体験活動を通して心の成長を育む教育活動を展開する。
- ② 特別教室専門員とコーディネーターと連携を円滑に行い、幅広く生徒に対応する。
- ③ 学校やけやき教室、サポートルーム活用し不登校対応に取り組む。
- ④ 道徳教育を推進し生徒の道徳性と教師の道徳的実践意欲を高める。
- ⑤ SDGs の推進を行う。自分たちを見つめ互いに助け合い感謝しあえる気持ちを育む。
- ⑥ 多様性を受け入れるという視点に基づいた教育活動を展開する。

### (2) 健全育成の推進

- ① 授業を中心に「みそあじ」（身だしなみ、掃除、挨拶、時間）の4つの柱を励行し生徒の基本的な生活習慣を確立させる。
- ② ルールの意義について自発的に考えさせ集団生活でのルールの在り方を考えさせる。
- ③ 校内、校外で場に応じた挨拶ができる生徒を育成する。（挨拶運動の奨励）
- ④ 生徒の生活習慣を確立するため、担任、養護教諭、家庭で連携をとる。

### (3) 確かな学力の推進

生きて働く「知識・技能」の習得を図り、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」や課題を見出し、解決する力を育て、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間力等」を涵養し、「生きる力」を育成する。

- ① 評価評定についての進捗状況を授業、考査等で確認しながら精度を高める。
- ② 自学自習ノートを推進する。
- ③ 教科等でタブレット利用回数を増やし有効的に活用し学力向上を図る。

- ④ 学校全体で SDGs の取組を考えた教育活動を展開する。
- ⑤ 学習支援員、ICT 支援員等と連携して授業でのタブレット活用を積極的に行う。
- ⑥ 生徒同士が意見交換を行う時間を確保し、協働的な学びから自分の学習を振り返り、深い学びにつながるよう授業を行う。
- ⑦ ユニバーサルデザイン化された授業で、授業を視覚化させねらいに迫る授業を行う。
- ⑧ 数学科、英語科での少人数指導を充実させ、個に応じた指導と協働的な学習を推進して自主的・自発的に学習に取り組める生徒を育成する。

#### (4) 体力向上の推進

- ① 体力テストの分析を行い保健体育科で本校の弱み克服のための手立てを考えた授業展開し、検証する。
- ② 昼休み、体育の時間、部活動等で体を動かすことの楽しさを味合わせる。
- ③ 部活動ガイドラインに沿ったクラブ活動を充実させることで体力の向上を図る。

#### (5) 生徒の生活環境等の整備

- ① ユニバーサルデザインを意識し、生徒の学習意欲が高まる環境を整える。
- ② 言語環境を整備し互いが尊重できる人間関係を育む。
- ③ スクールカウンセラーを活用した教育相談活動を行う。
- ④ 特別支援教室、サポートルーム等を活用して個に応じた指導と支援を行う。
- ⑤ 生徒理解を深める体制を確立し、教職員のカウンセリングマインドを醸成する。
- ⑥ 校内委員会、特設委員会の中で、詳細に情報共有し、生徒理解を深める。

#### (6) 地域連携を積極的に行い、地域に根ざした学校を目指す

- ① スクール・コミュニティの協力のもと、保護者、地域の連携を図る。
- ② 公開日では保護者、地域の方に教育活動への理解を深めてもらう。
- ③ 道徳授業地区公開講座では、生徒の道徳性の在り方について考える機会とする。
- ④ スマート連絡帳を有効に活用し、学校だより等をデジタル配信することで情報提供する。
- ⑤ 地域行事参加を家庭に周知し、生徒を積極的に参加させる。
- ⑥ 「心に届く一言運動」を小学校と連携し展開する。
- ⑦ 小学校との連携では校長や生活指導主任が定期的に連携を図り小中連携を円滑にする。
- ⑧ 児童・保護者の具体的で確かな情報授受を円滑なやり取りを確実に行う。

(7) 安全管理及び安全教育を推進する

- ① 三中危機管理マニュアルに基づき、危機未然防止管理の徹底を図る。
- ② 三中防災マニュアルを有効に運用する。
- ③ 毎月の避難訓練の実施と日頃からの危機意識と対応力を高める。

(8) ワークライフバランスに通じる教員の組織体制の充実

- ① 学校通信、学年だより、学級通信等をデジタル媒体で配布するようにする。
- ② 組織対応を行うことでサービス事故を起こさない
- ③ 支援員を活用し、教員の職務の効率化を図る。学校経営支援予算を有効に活用する。
- ④ ICTを活用して学校業務の内容を見直し校務改善につなげる。
- ⑤ 計画的に人材育成を行うことで組織が発展し形骸化しないようにする。
- ⑥ クラブ活動も地域人材を充て地域移行を推進する。

(9) 家庭・保護者との連携・協力

- ① 学校の透明性を図るために、できる限りの情報を保護者に公開し保護者と学校の関係についての信頼性を高める。